

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌新琴似校		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 21日		~ 2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	2024年 10月 21日		~ 2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団としての療育と個別としての療育を選んで利用していただける。	どちらの活動を選んでいただいても、静と動の取り組みを意識して取り入れています。	保護者様も参加していただき、お子様の様子を見ていただくことで支援への理解や自宅でも取り組めるような支援の方法、今後の支援についてを共有できるような活動を定期的に行っていきます。
2	小集団療育は幼稚園や保育園での集団活動より少ない人数の中でお友達との関わり方を体験していただけます。	一人ひとりの気持ちを尊重しながらも、色々な場面での関わり方、対応力を身に付けていけるよう促しを行っています。	お子様同士の社会性を養っていけるよう校舎内での活動だけではなく、外出イベント等を行い色々な体験を経験していくことで成長へとつなげられるよう定期的に計画していきます。
3	個別療育はお子様のペースに合わせた支援の内容を細かく設定することができます。	その日のお子様の状況や気持ちを聞き取り、読み取ることで活動内容を臨機応変に変更しています。	ひとつのやり方だけではなく、同じ目的を持った療育の方法を何パターンも用意しておくことで、その日のお子様に合わせてアプローチの仕方を变えることで支援していくことができるようになる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家族から希望される支援が学力向上、小学校入学に向けたものが多くなっている。	地域の口コミや相談室さんのイメージでは「クラゼミ」といった名前からも塾のようなイメージを持たれがちですが、学習支援の本来の目的や働きを新たな理解やイメージとして拡げていかなくてはいけないと考えています。	学力向上へ繋げるための事前準備として、遊びからの集中力や興味関心の幅を広げるきっかけ作りや人との接し方や関わり方を身に付けていく必要がある事を知っていただく。
2	早期療育の必要性が地域へ浸透しきれていない。	上記に同じ	上記に同じ
3	小集団での利用児年齢層が上下で割れてしまい、同じ活動を行う中でも取り組みにかかる時間や待ち時間に差が出てしまう。	一緒に活動する仲間としての意識が弱く、個々での活動となってしまうことがある。	年上の子は下の子の面倒を見てあげたいといった意識や下の子は上の子の真似をしたいと思う意識を持てるよう、自分自身以外の相手に意識できるきっかけを提供していく。

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どものサポート教室「クラ・ゼミ」札幌新琴似校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数

7

回収数

7

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7	0	0	0		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	1	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6	0	0	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6	0	0	1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5	1	0	1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	5	1	0	1		
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2	1	1	3		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	0	1	1		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	6	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	1	1	3		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	0	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	0	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	0	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	0	0	2	・事故が起こったことがないため分からない	危険予測を行い、細心の注意を払いながら事故が起こらないよう支援、イベントを今後も行ってまいります
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7	0	0	0	・子どもに合わせ対応してくれているため無理せず通えている	お子様、保護者様から喜ばれる事業所を目指してまいります
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	0	0	0	・先生も優しく、個別対応なので毎回楽しみにしている	毎日でも行きたいと思っていただけるような満足感のある場を提供してまいります
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌新琴似校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		指定基準上問題ないスペースが確保されています		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		担当制をなくし、職員全員が利用者様の対応に入れるようにしています	新しい職員も増えたため、利用者様、保護者様との信頼関係構築に努めていきます	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		ビルテナントのためトイレや給湯室が事業所外にあり、職員が付き添うことで対応しています		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		パーティションを使い、集団で活動できるスペースと個別での活動スペースに区切り、メリハリをつけています		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼、運営会議だけではなく日常的に職員が話し合えるような環境作りを心掛けております		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			第三者評価は現在行われておりません	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に研修や事例検討会に参加しています		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		計画書更新時にアセスメントシートの配布、保護者様の意向も含め計画書の作成をしています		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		申し送り表や連絡ノートを用いて職員全員で把握できるようにしています	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		希望があった際には直ぐに対応できるよう日頃より準備を行っております	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		ご家庭や学校からの希望があった際には直ぐに対応できるよう日頃より準備を行っております	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				該当なし
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				該当なし
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				該当なし
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			お子様の特性や特性を踏まえた関わり方等ご家族様と一緒に療育・支援についてお話し、考えを共有できる場を作りたいと思っています	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○			今年度は開催することが出来ませんでした 定期的に開催できるよう検討してまいります
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		HPや月2回ほどのブログ更新、LINEの導入や毎月のお便りにてお知らせを心掛けております		皆様に目を通していただけるようなお便りを作成していけるよう工夫してまいります
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		施錠可能な棚や引き出しに保管しています		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○			近隣の方が参加できる相談会等を企画していきたいと考えております
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		利用者様全員の参加は難しい状況ではありますが、定期的に防災訓練を行っております		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		災害内容を変え防災訓練を行い、ブログにて公開しております		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		イベント開催前等食物を提供する場合にはアレルギー調査を行っております		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回以上の研修を行っております		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		契約時に重要事項説明書にて説明しております			